

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。議長より登壇の許可を得ましたので、ただいまから15番政和クラブ石橋敏伸の一般質問を始めさせていただきます。ベテラン議員の後で大変緊張して、今さっきこけそうにもなりましたが、皆さん方もお疲れと思いますが、もうしばらくおつき合いいただきたいと思います。

きのうのニュースは日本中に激震を起こしました。安倍総理の辞任騒動であります。内閣も改造し、ほころびを縫いつつ、きれいな体で再出発。せっかく2人の佐賀県出身の副大臣も就任したやさきでした。昨夜は一般質問の再放送も見なくてはならないし、総理のニュースも見なくてはならないと、テレビのチャンネルのリモコンを持ってがちゃがちゃとだんじやなか夜でした。結局、きょうの質問のための勉強も深夜に及びましたが、少しふらふらしていますけれども、頑張っって何ってまいりたいと思います。

最初に、メタボリックシンドロームの引き起こす重病の恐ろしさについて、2つ目に、学力向上に対する教育委員会の取り組みについて、3つ目に、あいさつを通じて地域社会の活性化と青少年の育成について、以上、3つの質問をさせていただきます。

メタボリックシンドロームという言葉は最近よく耳にするとおもいます。これは、一般的に内臓脂肪症候群と呼ばれ、生活習慣病の一部と理解され、不規則な食生活や運動不足などが積み重なった結果、必要以上に体の中に脂肪をためてしまい、健康上大変気になる状況を幾つか引き起こしてしまうことがあります。放っておくと、ある日突然大変なことになってしまう恐れがあります。健康診断はもちろん、テレビ、雑誌でも多く目にするようになった中性脂肪を気になされる方も少なくないと思います。

実は、私も油断すると少し太ってしまう恐れがあるため、お酒をいただく機会が多いときなど、なるべく食べる量も控えております。しかし、それでもしつこい味の物が好きなため、お酒のお供にはいつもそのようなものを選んでしまいます。これが中性脂肪の原因だと考える昨今でございます。しかし、血液中の中性脂肪は人間が活動するためのエネルギーでもあり、健康を維持するために大切なものであります。ところが問題なのは、それが過剰にある場合、健康を損ねる恐れがあると思います。

最近、豊かになった日本の食生活は欧米化し、大きく変わり、動物性たんぱく質、脂肪を多く取るようになってきました。必要以上に摂取された脂肪は、エネルギーとして消費されないまま血液中に巡回して、私たちの健康を脅かそうとしております。

ここで質問でございます。

このメタボリックシンドロームの問題に、武雄市としては市民に対してどのような呼びかけ、または注意を促してきたのか。また今後、市民からの相談などがある場合、どのように対処していくのかをお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

國井くらし部長〔登壇〕

それでは、お答えいたします。

健康を預かる責任者として、私の今の状況での答えはちょっと酷な気がしますけれども、お答えさせていただきます。

メタボリックにつきましては、ケーブルワンの市役所だよりで5月に3回シリーズで放映しているところでございます。そして、メタボリックとは何かと、予防、注意、それからメタボリックに対する知識等の普及ということでPRを行います。それから5月の市報で、健康保険だよりの中で、メタボリックについて医師会からの原稿を載せているところでございます。

それから、6月から、メタボリックは腹囲の測定が基準になりますので、この測定を行うということで周知していたところでございます。

それから、どういうふうな対策をしますかということでございますけれども、一応、本庁においては随時健康課のほうで相談を受け付けております。また、山内、北方支所につきましては、健康相談、栄養相談、糖尿病相談、これを定期的に開催しておりますので、そちらの方で御相談いただければいいかと思っております。この内容につきましては、ケーブルワンにおいてもPRをしているところでございます。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私もメタボリックシンドロームの一員でありますので、大きなことは言えませんが、お医者さんから聞いたところによると、食事もさることながらきちんとした運動をなささいという指導をいただいております。石橋議員も大変なようでございますけれども。動くことがやっぱりメタボリックシンドロームの低減につながるということでありますので。

ここで1つお願いがありますのは、どうせ動くのであれば、これ古川知事もおっしゃっておられますけれども、新現役世代の方々に特にお願いなんですけれども、下校時に歩いてほしいと。今、私夜な夜な歩いております。夜な夜な歩いて不審者に勘違いされることもあります。しかし、夕方にお時間があられる方は、ぜひ歩いていただいて、これ犬の散歩でも結構かと思えます。そういったことで、地域の見守り、見回り、そういったことで一石三鳥、四鳥、メタボリックも減って犯罪も減る、そういう社会活動をできればお願いしたいというふうに、かように考えております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

メタボリックシンドロームは、高血圧、高血糖、そして高脂血症が合併した状態で、動脈硬化が急速に進み、脳卒中、心筋梗塞などの大病に襲われる危険性があるとされておりま

す。これは9月4日の新聞ですかね、成人の31%は自分がメタボリックシンドロームと思っており、50代男性では半数以上の57%が自覚しているらしいです。胴回りが、男性で85センチ以上、女性90センチ以上の内臓脂肪型肥満で、実際に病院に行って検査を受けたのは26%、低いですが、行かない理由は、心臓病とは思わないが50%、面倒だから40%の順だったと新聞にはうたっています。

武雄市は保健衛生面で、ありがたいことに市民の健康に大変関心を持っていただいております。さまざまながんに対し検診費用や助成をしておりますし、ほかにも健康診断や予防接種などへも積極的な予算計上をいただいております。

ここで、今まさにメタボリックシンドロームが引き起こすといわれる重病に対し、早いうちの対策が必要ではないかと考えますが、自分がメタボリックシンドロームではないかという診断、ほかにも専門家による講義など、この問題には助成をしていく考えが今後あるのかをお答えください。

議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

國井くらし部長〔登壇〕

住民検診というのは一時診査検診でありまして、その結果出た診断、その治療に当たりますと、病気ということで一般の病気と何ら変わらないところでありますので、おのあの保険証の保険を使いながら治療、または診断に当たっていただきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

沖縄の那覇市での取り組みをちょっと御紹介したいと思います。

那覇市では、市内在住勤務者を対象に、内臓脂肪解消に取り組み、年内に目標のウエストサイズを達成した市民を表彰する「ストップ・ザ・85」と呼ぶプロジェクトをスタートさせ、話題を呼んでいるという記事であります。

具体的な取り組みについては、ポスターによる啓発のほか、気軽に測定できるように、85センチ以上のレッドゾーンに塗った腹囲測定テープが配布されているそうです。また、市民の健康を支えるために、外食産業の食環境を考える食の関連プロジェクトにも取り組み、健康づくり協力店の認証を検討したり、外食アドバイザーの派遣や健康的なメニュー開発をサポートする外食産業向けの講習会も実施しているそうです。その反響として、那覇

市だけでなく日本全国、そして外国のマスメディアからも取材依頼が多く、反響の大きさにびっくりしています。

現在挑戦中の市民からは、「やせたいと思っているのでいきっかけになった」「とても温かい企画」「腹囲を測ってほしい」などの、市民が内臓脂肪に意識を向け始めていることがわかり、それが事業を立ち上げた結果だと受けとめていまして書いてあります。アメリカでは、肥満は寿命を短くするというショッキングな論文が発表されました。それほど肥満が大きな問題になっております。

肥満の引き金になるのはメタボリックシンドロームです。厚生労働省の調べでは、中高年世代の2,000万人が患者、またその予備軍と言われております。この議場にも、その対象者が数名見受けられます。早いうちの対応が重病を事前に防ぐことになると思いますので、武雄市もさらなる関心を持っていただくように要望いたします。

次に、子供たちの教育の問題についてお伺いします。

国のレベルでは、教育基本法の改正、学習指導要領の改訂など、教育の現場に対する危機感をベースにした見直しが進められております。本市にあっても、教育内容、教育方法の改善、改良を継続的に図っていくとともに、また教育の地方分権の流れを受けて、武雄らしい教育の実現、特色ある学校づくりが期待されているところでございます。

そこで、国の教育指針を踏まえつつ、武雄らしい魅力的な教育現場を実現するための方策について教育長にお伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

お答えいたします。

昨日も述べさせてもらいましたけれども、教育基本法改正を初めとする法整備も進みつつあります。新聞報道等でも御存じのとおり、小・中学校の授業時間増とか、総合的な学習の時間の見直しなど、新しい学校教育の方法も示されつつあります。

御質問にありました、武雄らしいという部分でございます。3つほど考えております。

1つは、テレビロケでも改めてふるさとの自然をテレビを通して見ますと、本当に豊かな自然風土というのを感じるわけです。何物にもかえがたいものではないかというふうに思います。

2つ目は、夏休みに金管バンドの九州大会金賞というビッグニュースがありましたけれども、文化を尊重する教育風土、文化的、歴史的な風土、これは一朝一夕にできるものではないわけでありまして、その大事な風土があらうと思います。

3つ目は、教育を支える温かい土壌、例えば、子供の安全のためだったらとか、夏休みの奉仕作業、防犯パトロール、通学合宿等々、もう数え上げたらきりがございません。先般の

市連Pとの懇談会でも、行政機関、学校、家庭、地域社会のさらなる連携のあり方を考えようという本当にありがたいテーマで熱心に協議をしていただいたわけです。こういう教育を支える温かい土壌というのがあるとうと。

この3つが、武雄らしい教育を目指すときの基盤になるのではないかというふうに考えております。そういう意味で、市の教育の基本方針も「歴史と文化と地域が育む心豊かなまち」を目指してという大きなねらいにつながっているのかなという気がいたしております。

教育長として、5月第1回目の校長会でお願いしたことが幾つかあるわけではありますが、1つは、学力の問題とか心の問題、体力の問題。学校でありますので、成長過程の子供ですから、問題があつて当たり前のことでもあります。また、学校を経営する上での人材、あるいは物、予算的な金、足りないこともいろいろ承知しておりますし、立場として努力いたしますけれども、考えようによっては、子供の育ちには適度の不便さも要ということが逆に効果的だったと、結果的でありますけれどもそういう面もございます。そういう意味で、私は1つの言葉を校長先生方に送っております。つくると、作り合おうということでもあります。ないないではなくて、何かできるものは何なのかということをお願いいたしております。つまり、その中で、去年までと違う学校づくりというのできるのではないかと、自分づくり、学級づくり、授業づくり、運動会一つでも去年と違うものができるのではないかと。いかにも教員らしい話になりましたけど、そういうお願いをしているところです。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

教育長もおもしろいですね。だんじななかなですね。

9月5日の新聞でしたかね、全国学力調査が43年ぶりにあつたそうではありますが、新聞の中で、開示方法等が記載されていますが、教育長、もし佐賀県で武雄市が、これ数値公表はしないと書いてありますが、もしお答えできたら武雄市の、今の佐賀県のあれがもしわかればお願いしたいと思いますが、いかがでしょう。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

ことしの4月末に、おっしゃいましたように、43年ぶりに全国一斉の学力調査があつたわけです。この結果につきましては、今月じゅうに届くようになっております。

新聞ごらんになって、公表しないという見解を出しているわけではありますが、公開については、昨年の6月にこういう前提で学力調査を実施しますという通知が出ております。その中には、比較できるような公表の仕方はしないというような前提で教育委員会として参加していると、参加主体は教育委員会ということになっているわけです。序列化とか過度の競争

が生じる恐れがある、あるいは今後の適正な遂行に支障が出たらいけないと。また、教科も少ないし、体力面なんかも全然はかってないわけでありまして、測定できる学力というのも一部であると、そういうことで、現在そういう公表はしないという姿勢であります。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

済みません。通告以外にいただきました、おわびいたします。

現在の教育を考えると、基礎学力の低下の問題を避けて通ることはできません。基礎学力の定着を図ることが義務教育の大きな使命であるわけですが、残念ながらそこに問題があるのが現状であります。本市としても、義務教育の最前線を預かる者として、基礎学力向上に全力で取り組むべきだと考えます。そこで、本市の基礎学力向上のための取り組みについての考えを教育長にお伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

夏休みに入りまして各学校をお願いをいたしました。夏休みに、学力向上につながるような宿題の出し方の中でいい例がありましたら、幾らでも教えてくださいとお願いをしましたところ、非常にたくさんの例をいただきました。先ほど創意ということを申したわけですが、学力向上の方策、基礎学力というのをどのあたりを指すかもまた問題ではありますけれども、本当に、単に練習的なのは子供は嫌うわけでありまして、それを意欲を持ってやる方法のために、先生方非常に工夫されているというのを感じたわけです。そういう意味で、この基礎学力向上のための取り組み、各学校、各学級で本当に一生懸命やっていたということを感じております。

例として挙げますならば、学びの手引きというのを使って学習習慣につなげる、あるいは若木小、武内小、朝日小を中心に今年度は全体的に取り組んでもらっていますが、評価の研究、評価から授業なり、目標なりを見返すと、そして授業につなげると。あるいは朝とか放課後の時間を使った補充の学習。夏休みもかなりの学校で学習会等もあっておりました。そういう具体的な取り組み、まだまだたくさんあるわけですが、していただいていると。

ただ、いずれにしても、この学力を考えたときに、小・中学校の間の場合を考えますと、基本的な生活習慣、学習習慣を抜きには考えられないだろうという気がいたします。その意味で、各学校、その面も並行して取り組んでいただいている、御家庭の協力もいただいているということでもあります。

同時に、先ほど紹介しました市連Pとの懇談会の中では、北方の例を出していただきましたけれども、ノーテレビデーなどの実施、どれぐらいをテレビやゲームに費やしているかと

ということから考えますと、そういう試みも基礎学力、直結はしていませんけれども、子供の学びの成長を考えたときには、避けて通れないことであろうというふうに考えております。

これまで、武雄市におきましても、平成2年3月でありますけれども、こういうふうにして各学校で学力向上の対策委員会を設けて取り組んできていただいております。そういう意味で、また、先ほど出ました学力調査等の結果等も踏まえまして、検討していくことかというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

次に、学力の内容についてですが、さきの中教審報告等でも、基礎学力の中に、基礎は国語力であり、その充実を図ることが重要であると指摘されております。私もこれには大賛成でございます。市長はこのことをどのようにお考えでしょうか。

さまざまな学習を支えていく基礎として、最も大切な国語力を重要視すべきと考えます。そこで、本市における国語力向上のための取り組みについて、教育長にお伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は大賛成であります。国語はすべての科目、そして人間的素養の根幹だというふうに思っております。自分の思っていることをきちんと言葉に乗せて伝えること、そして、いろんな事象を言葉を通じて自分の脳の中に、心の中に入れていくこと。国語がそもそもの根源だというふうに思っておりますので、質問をお聞きして本当に嬉しく思いました。

今、英語だとかいろいろなのを、小学生とか保育園生とかという風潮が都会を中心に広まりつつあります。私は、それは行き過ぎはいけないというふうに思っております。語るべきことがあれば、英語でもドイツ語でもいろんなことで後で語れると思いますので、まず国語が私は第一だというふうに思っております。そのときに、国語もすぐれた国語を入れなければいけない。例えば、いまだに私は夏目漱石の「吾輩は猫である」、あれは非常に完成された日本語だと思います。ああいう、わからなくても、ああいったすぐれた日本語の教材を、私もだんだん熱が上がってきましたけれども、小学校のときからきちんと読むといったことが、それを読み通すことによってまた自信になる、そういったことが大事なんじゃないかなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

市長室で市長とお会いして、一番一致したところがこの国語力の向上という点でございます

した。

お話のとおりに、教育課程審議会も中教審等もこれからの国語力の大事さ、重要さというのは指摘しておりますし、恐らく間もなく出されるであろう指導要領も国語力の向上、あるいは授業時数等も増加の方向にあるのかなという気がいたしております。思考力、表現力、創造力、いずれをとっても国語の力でございます。学力向上、すべての学力を上げたいわけですけれども、そのかぎとなるのも国語力であろうというふうに思っております。

今、武雄市の国語教育は県内外から注目を浴びております。先般、武内小での研究授業では、県内外からやはり、算数もされましたけれども、300名を超す先生方が研修に見えております。特に私がありがたいと思っておりますのは、小学校、中学校ともですけれども、対話力とか、コミュニケーション力とか、話し合いとか、討論とか、そういう力を通して言葉の力をつけていこうということをしていただいているということでもあります。

5月、先ほどの市長の話と一緒にすけれども、1回目の校長会の折に、言語力向上のための取り組みを行うように校長先生方をお願いいたしました。その成果についても、また途中で報告をいただきたいというふうに思っておりますが、いずれにしても、国語力の向上が全教科を支え、そして、先ほど言いました対話力等は同時に相手がありますので、心も磨くと、学級もつくと、そういう大きなメリットが裏側にあるわけでありまして、そういう面で仲間づくり、学級づくり、そういう面まであわせてお願いをしていきたいと、向上に努めていきたいと。同時に、先般からお話ししております読書計画等も出していただいております。この議会でも提案等もいただきました。そういう面で片方に読書力、読み取る力の向上等もお願いしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

ありがとうございます。

私もこの質問をするのが、私自身がまだ読み方もちょっと訥弁だとちょっと失礼だなと思いましたが、あえて出させていただきました。

次に、授業力の向上についてお伺いいたします。

児童・生徒にとって魅力あるわかりやすい授業を展開できるかどうかは、教員の授業に依存します。児童・生徒の学習意欲や態度の変化、関心の多様化など、従前の指導方法で対応できない状況も多く見られるとお聞きしました。難しい教育環境に対応しつつ、確かな学力をはぐくむ授業を実現するために、教員の方々の教育研修の場が極めて重要であると考えております。

けさ、私も6時ぐらいにラジオを車の中で聞きました。ニュースがあってました。そして、帰って新聞を見たら、指導力不足教員450人ときょうの新聞にありました。きょうは夕



イミングいいなと、私も思って切り抜いてまいったところであります。

ここを読ませていただきますが、教育委員会が2006年度に指導力不足と認定した公立小・中・高の教員が、前年度から56人減少し450人だったことが、12日に文部科学省の調査でわかったと書いてあります。調査は、都道府県、政令都市の各教育委員会を通じ実施、対象は全国の公立高校などの教員約89万7,000人。指導力不足と認定された教員のうち、104人が依願退職したほか、4人が分限免職、7人が別の職種への転任となり、150人が教職を離れ、研修後に現場復帰したのは101人だった。残りの大半は研修中や休職中、認定教員の60%が在職20年以上のベテランの先生、40、50代が83%を占めたと書いてあります。その中で、佐賀県は7人いらっしゃったそうです。全然いらっしゃらなかったところが札幌、静岡、堺市の各政令都市が1人も認定教員はいなかったと、きょうの新聞に掲げてあります。

そこで、本市における授業力向上のための取り組みについて、教育長にお伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

今数値を挙げて、指導力不足教員についてお話ししていただきましたけれども、それ以外にも精神的な疾患とか、あるいは体調を崩すという先生方が多いのは事実でありまして、非常に厳しい状況があるということは、もう御承知のとおりであります。いわば、もう命がけでやっているというようなところさえ感じるところでございます。

以前と変わりました中に、校長先生が各先生方にヒアリングをするということがここ二、三年導入されました。先生方がことし1年どういことをやりたいか、頑張りたいかということ年度当初聞いて、途中でまた話し合っていてできるかなということ、また終盤にすると、話し合うと、そういう校長先生の思いを理解し、自分の担任教諭としての思いを述べ合う中で、非常に協力的な関係、学校というのできつつあるというふうに思っております。それは、もう全県下同じようなことでやっているわけですが、市教委としまして、指導力向上のために研修会もいたしております。授業を通して、わかりやすい指導方法について研修等を行うわけですが、先ほど言いましたように、若い先生、男女違います、年齢も違います、経験も違います、それぞれが違うわけですから、そういう中で、自分のどういう指導力、指導力のどのあたりを高めるかということは非常に大事なところになってまいります。そういう意味で、先ほど申しましたヒアリングの意味というのは非常に大きいというふうに思っております。

それから、先ほど申しましたように、夏休み中にも研究会等をされたわけですが、10月から12月にかけて御船が丘小、西川登小、武雄小、山内中等でも発表をされます。これはやはり公開というわけですから、する先生方はやはり、かなり緊張して、努力していただく、さらに努力していただくという部面はあるわけでございます。また、ほかの先生方もそ

れに学ぶというようなことになるかと思えます。

せんだって、若木公民館にお邪魔いたしました。玄関入ってすぐガラスケースがありまして、その中に筆で書いた古い、もう茶色っぽくなっていましたけれども、教案つづりというのがございまして、明治43年かだったと思えます。筆で書かれまして、なかなか私も読めなかったんですけども、授業の計画が非常に丁寧に書いてありました。「担任訓導 青木」とか書いてあったと思うんですけども、それは胸を打たれました。そういう形で、先輩の先生方に劣らず頑張っていておられますけれども、本来地味な、大変な、報われることが必ずあるという仕事ではありませんけれども、先生方頑張っていておられるということを思いますし、教育は人なりということですから頑張っていていただきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

そしたら、次の質問に入らせていただきます。

私は、日ごろよりあいさつの大切さ、そして大事さを感じております。子供のころ、私はスポーツを通じさまざまなことを学んできたことが、今日大変役立っております。中でも、あいさつというものがすべての基本であり、いかに大事なのを感じております。スポーツの経験がある私は、まさに武道の基本、礼に始まり礼に終わると、これをたたき込まれ、これをしっかりできないとスポーツをする資格もないし、人として反省すべきと先生に教えられた記憶があります。

ここへ来て、違う観点からあいさつの大切さを少し見直さなければいけないのではないかと感じております。もともとあいさつとは、人と人をつなぐかけ橋のような役割をしていると思えます。例えば、ありがとうという感謝の気持ち、ごめんなさいというおわびの気持ちを相手に伝えることがコミュニケーションをより一層図ることのできる手段だと思えます。そのようなちょっとした気遣いを日ごろから心がけていることで、新しい友達ができることに役立つのではないかと考えております。

少子化、核家族が進み、マンションを初め、集合住宅の増加に伴い、地域コミュニケーションの減少化が進むきっかけになっております。つまり、近所づき合いが少なくなっているのが現状だと思っております。子供たちが健やかに育っていくためには、家庭や地域の中でのコミュニケーションが果たす役割はとても大事です。この会話の基本があいさつではないかと考えます。あいさつを通じ、家庭では会話が弾み、地域では今まで知らなかった人たちが友達になっていくと思っております。

ここで質問であります。

武雄市はあいさつ運動をキャンペーンのような扱いで、地域に推進したことが過去にあっ

たのか。また、今後このあいさつ運動を子供の育成、また地域コミュニティの拡大という観点から推進していく考えはあるのかをお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

各学校、各公民館等で、あいさつ運動についてはこれまでもしていただいておりますし、青少年育成市民会議の中でも重点目標の一つとしてあいさつ、返事、履物そろえ等の推進、これを掲げてやっているところでございます。

キャンペーン運動としてどうだったかというのは、ちょっと私調べきれれておりません。ただ、学校等では全部の学校が掲げてやってもらっているというところであります。今後、あいさつ運動はさらに推進していくべきだというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

複数の自治体では、あいさつ運動は地域コミュニティの再生と防犯が一体となったものとアピールして、安心・安全のまちづくりに、あいさつを通じた地域コミュニティづくりを目指しているところがあります。痛ましい子供への犯罪が増加している昨今、学校と地域とが一体となり、日ごろから注意深く子供たちを見守り、犯罪を防ぐそのような活動をしていく必要があると思います。犯罪者は人に声をかけられるのが一番嫌がるそうです。そこに立っている人が今犯罪を犯そうとしているとき、あいさつをすることで我に返り、犯罪を未然に防ぐことにつながるかもしれません。つまり、あいさつは犯罪を防ぐために一役買うという意識が高まっていると思われませんが、武雄市は各地域との連携のもと、いわゆるソフトの面からの安心・安全のまちづくりの観点で、このあいさつ運動の重要性というものをどのようにお考えか、お聞かせ願います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

議員と全く一緒であります。あいさつをコミュニケーション、あるいは教育、さまざまな点でとらえて、今後そのあいさつの運動の推進、教育の現場、あるいは行政の現場で、大人がまず一生懸命やりたい、そのように考えております。

私ごとになりますけれども、私は小学校のときに野球部でありました。そのときに、今ここにいらっしゃる古賀副市長は、優しい顔をして指導に来ていただいているときに、いつも「こんにちは」とか言いんさるわけですね。あの姿というのは、やっぱり大人が率先するというのは、いまだに我々の気持ちに残っております。「こんにちはおじさん」というふうに

言ってたかもしれません。そういうことで、我々大人世代がそういうふうに範を垂れていく、これは非常に大事なことだというふうに思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

市長の答弁、ありがとうございました。

あいさつをすることによって、地域の人たちとの交流を深めることができ、犯罪抑制の手だてになるかもしれません。しっかりとした対応を要望いたします。

あいさつ運動は心の教育です。この運動が広がりを持った運動にしていいただきたいと希望いたします。そのためには、行政、家庭、地域、そして学校が一体となり、取り組まなければ地域活性化にはつながらないと考えております。人と人とのつながりがある、明るい、そして温かい地域社会をつくっていくには、まずお互いが知恵を出し合い、あいさつ運動が全域で浸透することが大事なのではないかと考えます。どうかこの運動に、武雄市がさらなる関心を持っていただくことを再度希望し、私の一般質問を終わらせていただきます。